



第5回

埼玉県立 自然の博物館

日本地質学発祥の地

日本に近代的な地質学が導入されたのは明治時代以降。秩父地域は都心からほど近く、日本列島の土台となる岩石が地表に露出し、「ナウマンゾウ」で有名なドイツ人地質学者ナウマン博士をはじめ、多くの著名な研究者や学生が足を運びました。かの宮沢賢治も、大正5年に盛岡高等農林学校の秩父巡検で地質の名所を訪れています。

かつて海であった秩父盆地から、パレオパラドキシアなどの哺乳類化石が多く見つかり、平成28年に「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」として国の天然記念物に指定されました。秩父地域は、先駆的な地質研究の舞台となったため、「日本地質学発祥の地」と言われています。

地球の窓 長瀨

岩畳や奇岩が続く溪谷美で名高い長瀨の岩畳は、秩父きっての景勝地です。長瀨一帯の地質は、海底



長瀨名所「岩畳」



「日本地質学発祥の地」の碑

に堆積した火山噴出物と泥や砂が、約7000万年前に地下20～30kmに引き込まれ、その熱と圧力で作られた岩石が隆起し、地表に出てきたものです。太古、地球規模の地殻変動により地下で生まれた岩石を目にできることから、長瀨は「地球の窓」と呼ばれています。

コラム

ジオパーク秩父 認定10周年

ジオパーク秩父は、秩父地域1市4町（秩父市、横瀬町、皆野町、長瀨町、小鹿野町）をエリアとしており、平成23年に国内で15番目の日本ジオパークの認定を受けました。

「ジオパーク」とは、「大地（ジオ：Geo）」と「公園（パーク：Park）」とを組み合わせた言葉で「大地の公園」を意味し、学術的な価値の高い地形地質遺産や、それにより育まれた動植物や文化を保全しながら、教育や観光などに活かし、持続可能な発展を目指す地域が認定されています。国内に43地域ある日本ジオパークのうち、埼玉県内では唯一、秩父地域が「ジオパーク秩父」として認定されています。

古代の巨大ザメ
「カルカロドン メガロドン」



太古の海の物語と 埼玉の謎の海獣「パレオパラドキシア」

はるか昔、秩父には、古秩父湾と呼ばれる豊かな海が広がり、「パレオパラドキシア」や「チチブクジラ」と呼ばれる大型の哺乳類が生息していました。約1700万年前に誕生した古秩父湾は、約1500万年前に東の陸域が隆起したことで消滅しました。

秩父盆地で発見された化石で特に目を引くのが、海棲哺乳類に属するパレオパラドキシアです。体長は1.5～2.0メートルほどで、現在、似たような骨格を持つ生物がないため、いまだに謎に包まれている生物です。パレオパラドキシアという名称も「太古の (palaios) 矛盾 (paradoxus)」という意味があります。

日本で見つかった約50標本のうち20標本が埼玉県で発見され、しかも、全身骨格は世界で僅か9標本だけですが、うち2標本が秩父盆地産と極めて貴重なものです。



「パレオパラドキシア」の化石標本

コラム

令和3年度特別展開催中!

自然の博物館 100年の軌跡

— 標本陳列所から自然史の足跡をたどる —

令和3
10/30 ~
令和4
2/27

100年前、秩父鉄道株式会社は、長瀬の地に「秩父鑛物植物標本陳列所」を開設しました。秩父地域は地質学黎明期から研究が盛んな地であり、大正時代には全国から研究者や学生が地質巡検に訪れていました。戦後、陳列所は全国に先駆けた自然史系総合博物館「秩父自然科学博物館」として昭和24年に再興されました。

自然の博物館はこの活動を受け継ぎ、全国初の県立自然史系総合博物館として昭和56年にオープン。以来、展示や印刷物、普及事業や学習支援などの活動を通じて、地域の自然に関心を持つ仲間を増やし、地域の未来を担う人材育成にも貢献しています。



どんちゃん

埼玉県立 自然の博物館

〒369-1305 埼玉県秩父郡長瀬町長瀬 1417-1
TEL 0494-66-0404

開館時間：午前9時～午後4時30分（入館は午後4時まで）

休館日：月曜日、12/29～1/3、1/17～28
（祝日、振替休日、GW期間、7・8月、県民の日は開館）

観覧料：一般200円、高校生・大学生100円

※開館状況は、自然の博物館ホームページに随時反映していますので、ご確認のうえ来館ください。

<https://shizen.spec.ed.jp/>

